

1 目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基礎を培う。

「自立」

児童及び生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮しよりよく生きていこうとすること。

「調和的発達の基盤を培う」

一人一人の児童又は生徒の発達の遅れや不均衡を改善する。又、発達の進んでいる側面をさらに伸ばすことによって遅れている側面の発達を促して、全人的な発達を促進すること。

2 改訂の要点

近年、特別支援学校に在籍する重複障害者の割合が増加傾向にあり、多様な障害の種類や状態等に応じた自立活動の指導の充実が求められている。また、発達障害を含めた障害のある児童生徒等が、特別支援学校だけではなく、小学校・中学校等においても学んでいることから、自立活動の指導の充実が求められている。

(1) 特別支援学校幼稚部教育要領、小・中学部学習指導要領

- ① 総則の教育課程の編成における共通事項自立活動は学校の教育活動全体を通じて行うため、各教科等の指導と密接な関連を保つことが必要である。→「外国語科」「外国語活動」についても同様。
- ② 自立活動の内容人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による生活上又は学習上の困難を改善・克服するために必要な代表的な要素 27 項目を 6 つの区分に分類・整理した。
 - ア 健康の保持「(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」項目追加
 - イ 環境の把握「(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること」
「(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること」下線部追加
- ③ 個別の指導計画の作成と内容の取扱い
 - ア 作成について理解を促すため、作成手順の中に「指導すべき課題」を明確にすることを加え、各過程を整理する際の配慮事項が示された。
 - イ 児童又は生徒が自己選択や自己決定する機会を設けることで思考したり、判断したりすることができる内容を取り上げるよう示された。
 - ウ 個々の児童又は生徒が自立活動における学習の意味を、将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し、取り組める指導内容を取り上げるよう示された。

(2) 小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領

- ① 総則における特別な配慮を必要とする児童又は生徒への指導
特別支援教育に関する教育課程編成の基本的な考え方や、個に応じた指導を充実させるための教育課程実施上の留意事項などが一体的に分かるよう学習指導要領の示し方について充実が図られた。
- ② 特別支援学級における自立活動
特別支援学級において実施する特別の教育課程の編成に係る基本的な考え方の一つとして、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第 7 章に示す自立活動を取り入れることが示された。
- ③ 通級による指導における自立活動
特別支援学校の自立活動を参考として具体的な目標や内容を定め指導を行う。その際には、効果的な指導が行われるよう各教科等との関連を図るなど、教師間の連携に努めることが示された。
※ 小・中学校等における障害に応じた特別の指導は、「障害による学習上又は生活上の困難を改善、克服することを目的とする指導とし、特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を取扱いながら行うことができることとする。」とし、障害に応じた特別の指導の内容の趣旨を明確に規定した。

→ 単に各教科の学習の遅れを取り戻すための指導など、通級とは異なる目的で指導を行うことがないよう留意する。

④ 個別の指導計画等の作成

特別支援学級に在籍する児童又は生徒及び通級による指導を受ける児童又は生徒については、「個々の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し効果的に活用すること」が示された。

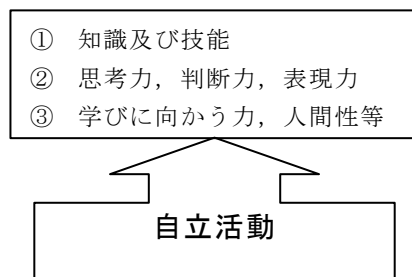
3 自立活動の意義と指導の基本

(1) 自立活動の意義

① 自立活動は三つの柱から整理されていない

今回の改訂は全ての資質・能力に共通する要素となる三つの柱 [①知識及び技能] [②思考力, 判断力, 表現力] [③学びに向かう力, 人間性等] を踏まえて目標や内容が整理されている。

しかし、自立活動は心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものであり、自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っている。



② 自立活動の教育課程上の位置づけ

特別支援学校の教育課程において特別に設けられた指導領域であり、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても、密接な関連を図って行われなければならない。→ 障害のある幼児児童生徒の教育において教育課程上重要な位置を占めている。

(2) 自立活動の指導の基本

① 自立活動の指導の特色

個々の児童生徒の的確な実態把握に基づいて、指導すべき課題を明確にすることによって、目標や指導や指導内容が定められた個別の指導計画が作成されている。

また、自立活動は個別の指導形態で行われるが、目標を達成する上で効果的である場合には集団を構成して指導することもある。しかし、自立活動の指導計画は個別に作成することが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に十分留意することが重要である。

② 自立活動の内容とその取扱いについて

自立活動の「内容」は、各教科等のようにその全てを取り扱うものではなく、児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱う。27項目全てを指導するものではないことに十分留意する。

4 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ

実態把握	①	障害の状態, 発達や経験の程度, 興味・関心など情報収集
	②-1	6区分に即して整理
	②-2	学習上又は生活上の困難, 学習状況の視点から整理
	②-3	〇〇年後の姿から整理
※指導すべき課題の整理	③	※ 整理した情報から課題を抽出
	④	※ 中心的な課題を導き出す
目標設定	⑤	課題同士の関係を整理し今指導すべき目標の設定
必要項目選定	⑥	目標を達成するために必要な項目を選定
項目間の関連づけ	⑦	項目と項目を関連付けるポイント(根拠)
指導内容決定	⑧	具体的な指導内容を設定

5 個別の教育支援計画の活用

個別の教育支援計画により教育的ニーズや長期的展望に立った指導や支援の方向性等を整理し、自立活動の指導計画に活用していく。また、自立活動の指導の成果が進路先でも生かされるように、個別の教育支援計画等を活用して関係機関等との連携を図るものとすることが示された。